

# 教

考えよう 教育の今 子どもたちの未来  
育 委 員 会 だ よ り

市民のみなさんのご意見をお寄せください

## 「多久市内小・中学校の今後のあり方」について

### 説明会を実施しています

平成19年12月に「適正規模・適正配置検討委員会」から、多久市教育委員会に「多久市内小・中学校の今後のあり方についての中間答申」をいただきました。その中で、多久市の小・中学校における課題解決を図るとともに、保護者や地域の多様なニーズに応えていくために、「小・中一貫教育を導入する学校規模の適正化と適正配置を考えていく必要がある」ことを主な内容とする提言がされました。

### 中間答申の概要

- ①最も望ましい教育環境実現のための統合・再編を早急に進め、市内に3中学校区のまとまりをつくる（平成23年を目途とする）
- ②統合にあたって、一部新たな学校を建設し、一部既存の施設を活用する
- ③小・中一貫教育の研究を進め、その導入を図る
- ④スクールバスの導入を図り、通学対策を総合的に講じる
- ⑤多久市の特色を生かした学習ができるような創意工夫をする
- ⑥跡地や跡施設は、地域活性化につながる活用を検討する

この「中間答申」を受けて、教育委員会では、2月からPTA総会や区長会等で説明会を開いており、5月27日までに22会場、延べ10000人を超える方の参加がありました。

これまでに寄せられた主な意見や質問・要望と、教育委員会の考えをご紹介します。

### 小・中一貫教育について

#### ①なぜ今、小・中一貫教育を導入か？

現在、子ども達は小学校6年間と中学校3年間を、それぞれのまとまりとして独立した教育活動を受けています。そのため中学校へ進級する段階で、不安や戸惑いなどを感じることもあります。この不安や戸惑いなどを解消できるような教育体制が、求められています。

また、学習指導要領や中央教育審議会では「義務教育を一貫したものととらえ、小学校と中学校の連携や接続のあり方について検討する必要があります。

がある」と教育行政に求めています。小学校と中学校の校舎を一体化し、小・中学生の異年齢交流をより密接にするとともに、施設を有効に活用したり、小・中両校の教員がすべての子どもに関わることができたりするなど、これまでにはない学校運営の活性化を図ることが期待できます。

さらに、一貫した教育課程を編成することで、小中学校の円滑な教育課程の展開が可能となり、「学力向上」や「怒（思いやり）の心」を身につけることが期待されます。

#### ②人口減の問題と小・中一貫教育がセットになっている理由は？

統廃合と合わせて、教育の中身を充実させるためです。学力向上はもちろんのこと、子どもをもつ若い世代の市内定住を促すためにも、魅力ある学校教育が必要です。小・中学校の授業に連続性をもたせ、中学校に進学した際に学習意欲を失う「中1ギャップ」を解消するのが最大の目的です。

少子化が進む中で、子ども達が近所のお兄ちゃんお姉ちゃんとふれ合う機会も減ってきていて、異年齢の子ども同士の交流さえ、学校で機会を作らなければならない状況が生じています。

#### ③途中で（制度の違う学校に）転校する場合、対応できるのか？

特に、国語を重視し、読書指導や語い指導を増やしたり、算数・数学では理解や習得の難解なところを繰り返し指導して、基礎基本が徹底できるとなるので、むしろ心配は少ないと思われれます。

#### ④全国でもあまり例がない小・中一貫教育に不安を感じる。単にもめずらしさだけで飛びついていいのか？

現在、全国に100を超えて小・中一貫校があります。また、多くの自治体が小・中一貫校の開校に向けて準備をしていますので、これから増えていく傾向にあります。

先生たちは、長年「子ども達のために」と努力をしてきました。しかし、教育現場での課題は増える一方です。小学校から中学校への進学の際、子どもが環境の変化で経験する学習・生活面で

の「つまずき」や「とまどい」を緩和させることができます。

